

— 目 次 —

CONTENTS

4	はじめに	「知らない単語」に出会ったら
8	第1章	途中で辞書を引くのはやめよう
18	第2章	わからないなら推理・推測してみる
28	第3章	少し「英語で」考えてみよう
42	第4章	ところで、「何が書いてある」のか
52	第5章	英語の段落には「決まり」があった
66	第6章	段落をわかりやすくする「仕掛け」
78	第7章	迷子にならないための「標識」
79	A	たとえば、並べる(例示と列挙)
90	B	比べ合わせて、納得させる(比較と対照)
102	C	原因と結果で理路整然と説明する(因果関係による説明)
113	D	順番をつけ、整理する(時間・空間の流れに沿う説明)
126	第8章	知りたいことは探し読みをしてみよう
142	第9章	時間がないなら拾い読みで切り抜ける
161	第10章	「本物の英語」に挑戦してみよう!

はじめに

「知らない単語」に出会ったら



◎広大な情報の海を溺れずに泳ぐには

英語を読もうとすると、必ず**知らない単語**あるいは**意味が思い出せない語句**に出会うものだ。

どんなに長く英語とつきあってきた人でもこれは避けられない。世の中は「日進月歩」で展開中だから、新しいことが次々と出てくるし、人間は一度覚えたものもしばらくすると忘れるようにできている。このこと自体については、残念で嘆かわしいと見る人がいる一方で、むしろ生き続けるのに役立つありがたい生理機能だと見る人もいて、意見は分かれる。

いずれにしても、「神様がそのように作った」のだから、受け入れるほかないだろう。「忘れないようにする」努力よりも、忘れてしまったり知らなかったりする語句にどのように対応するかを考えるほうがはるかに前向きだということになる。

この本ではまず、**わからない語句に出会ったら「辞書を引かない」**ようにしようと提案している。前後左右の文中にあるさまざまなヒントを活用し、さらには自分が今まで蓄積してきた経験から得た「知恵」の活用をまずやってみようというのだ。そのために、**推理・推測をどのようにしたらよいのか**を具体例をあげて解説してある。

またこの本では、「日本語訳」にこだわるのではなく、**書いてある「内容をとらえる」**ことに専念することを重視している。日本人が国産の英語教

育の中で不可避免的に身につけてきている「日本語に訳して意味をとる」悪癖をさげたいのだ。

たとえば、海外でのショッピングで次のようなレシートをもらったら、日本語に訳しても始まらないだろう。

Welcome to MapWorld
Tax Invoice (GST No: 82-495-517)
CASH
19/3/2004 S75224 10:16:06 MJR
1877256293 Tramping Smarter
1@\$39.95 \$39.95
 Total \$39.95
Includes GST of \$4.44
Navigation Resources Limited
Trading As MapWorld NZ
173 Gloucester Street
P O Box 13833, Christchurch 8031
New Zealand
.....

必要なのは、買った本が“Tramping Smarter”という書名で、39ドル95セント支払い、そのうち4ドル44セントは消費税だと理解することだ。100ドル紙片を出したのなら、おつりを間違いなくもらったかどうかの確認も忘れないようにしたい。後で何かの手違いに気がついたら、ここに表示されている“MapWorld”へ手紙を出すこともできるだろう。

ここでは省略したが、実際にはメールのアドレスも電話番号もホームページ (website) も記されていたから必要に応じて対応しよう。いずれにしても日本語の訳語を考えたり (訳すことすら) する必要はないのだ。

試験、実用を問わず、大量の英語文書に効率よく対応し、情報化時代の広大な情報の海をおぼれることなく泳ぐには、**英語の約束事を知り、段落ごとに区切って英文を理解する**ことが欠かせない。段落の仕組みがわかっていると、情報の処理が要領よくできるからだ。本書ではその仕組みとアプローチのテクニックを具体的な例と図解を用いて説明した。

そして、何事も「読んで覚える」だけでは身につかないから、「演習方式」をとり、練習問題も豊富に収録した。

さらに、**情報の「探し読み・拾い読み」は日常生活で欠かせない技術**であるが、それを英語でどのように行うかを、それぞれに一章ずつ当てて解説した。そのコツを身につければ、膨大な情報の中から自分に必要なものをうまくとらえ、一歩前進がはかれるものと思っている。

締めには、身につけた技術・要領を武器にして「**巷の英語**」(=^{ちまた}英語圏で実際に使われている生の日常英語)へ入ってゆくことができるよう扉をつけておいた。

つまりこの本全体は、リーディングのみならず「学んだ英語」から「生の日常英語」へ入っていくための練習帳といえるだろう。中学から高校、大学まで英語とつき会い続けて、なお夢を果たし得ず、努力の方法を探っている人たちのために書かれたものだ。とにかく気楽につきあってほしい。

間違って**当たり前**、気長につきあっていけば、そのうち間違わなくなるもの、それが外国語なのだ。

まず、面白そうなところ(章)に勝手に手を出るところから始めてみよう。英語力をつけなければ、などと緊張してはいけない。英語を楽しみのために読むと、実はいいことがあるのだ。なにしろ楽しんでいううちに、

- 単語力が増す
- スピードが増す
- 理解力が増す
- 書く力が増す
- 知識を増やすチャンスが増す

というわけで、楽しいぶんだけ得なのだから、人生がそのぶんハッピーになるというものではないだろうか。これは本書を読み進めるうちに実感されてくと思う。

要するに、「英語を使う」とは、先にあげた「レシート」の例のように具体的な生活場面と関係して行う生活行為であり、その目的もある種の必要に迫られたり楽しみのためだったりだ。目的もなく、一字一句を正確に追うなどという読み方は決してしないだろう。

しかし、この後者の読み方こそ、おおかたのみなさんが中学時代から繰り返してきた英文読解なのだ。このような読み方をしている限り、いくらハウツー本を読んでも、生の英語で知らない単語に出くわしたらお手上げ、となってしまう。これでは**その学習が全く意味をなしていない**。

車の運転と違って、英語なら失敗しても、間違えても、命まで失うことはまずない。間違えながら、時には恥をかいて上達していけばそれでいいのだから。そろそろ、「英文法の復習」や「単語・熟語の暗記」を切り上げて、生の英語＝実生活の日常英語の世界に飛びこんでみようではないか。

それでは肩の力を抜いて、次章からの練習を始めよう！

